

第73回 愛媛県眼科集談会のご案内

(日本眼科学会専門医認定事業単位申請予定 (3 単位))

日 時 : 2020年12月13日(日) 13:00 ~ 16:00
開催方法 : オンライン リアルタイム配信 (ZOOM ウェビナー使用)
登録方法 : 愛媛県眼科医会宛てにメール送信
kmatsumoto@ehime.med.or.jp

会 費 : 5,000 円 (但し、日本眼科医会 C 会員は 3,000 円)

※会費を下記口座に御入金頂き、確認出来次第、講演会のリンクを愛媛県眼科医会より送信いたします。

伊予銀行 本店営業部 普通 4599377 愛媛県眼科医会

■13:00~14:00 [一般講演] 講演時間 10 分 (質疑応答含め 15 分)

2 ~ 3 演題 (現在募集中)

■14:00~15:00 [特別講演①]

座長 愛媛大学医学部 眼科学教室 地域眼科学講座

〈地域拠点再生部門〉准教授 原 祐子 先生

「Ocular Surface 最後の Unmet needs :

マイボーム腺機能不全診療最前線」

演者 伊藤医院 副院長 LIME 研究会代表 有田 玲子 先生

■15:00~16:00 [特別講演②]

座長 愛媛大学医学部 眼科学教室 教授 白石 敦 先生

「角膜疾患の診かたと新しい手術治療」

演者 国立長寿医療研究センター 眼科部長 稲富 勉 先生

共催：愛媛県眼科医会／愛媛大学医学部眼科/千寿製薬株式会社

■ [特別講演①] 14:00～15:00

「Ocular Surface 最後の Unmet needs：マイボーム腺機能不全診療最前線」

演者 伊藤医院 副院長 LIME 研究会代表 有田 玲子 先生

マイボーム腺は瞼板に存在し、涙液油層を分泌している。まぶたと涙液、両方にまたがった疾患である。つまり、マイボーム腺機能不全 (Meibomian Gland Dysfunction, MGD) は眼瞼炎の一因であり、蒸発亢進型ドライアイの主因である。日常の一般診療において私たち眼科医が遭遇する最も頻度の高い疾患のひとつだが、失明しない疾患でもあり、なにより根本治療となる治療薬が皆無だったため、見過ごされることが多い疾患だった。

2019 年秋にアジスロマイシン点眼液が本邦でも処方できるようになり、状況は一変した。そもそもアジスロマイシン点眼液は 2007 年に米国 FDA に承認されて以来、MGD の特効薬として国際的ガイドラインに掲載され、現在、26 カ国で承認され、30 報以上の論文で MGD に対する効果が報告されている。マクロライド系の抗菌薬であるが、MGD への作用機序は主に抗炎症であると考えられている。処方の際には眼瞼炎の病名が必要である (MGD は AAO の分類においても眼瞼炎の一因である)。

本講演では、MGD 治療の本陣を“抗炎症”に置き、実際の MGD 患者に処方した臨床例を多数供覧し、最もよい適応や処方のコツ、本邦で私たちがアジスロマイシン点眼液の MGD に対する有効性をまとめた論文のデータも含めて紹介する。さらに国際的に最先端の MGD 治療機器である LipiFlow や IPL を紹介し、重症度による治療方法の使い分けについても言及したい。

ご略歴

1994 年	京都府立医科大学卒業
1997 年	大阪大学細胞生体工学センター (染色体機能構造分野) 留学
2001 年	京都府立医科大学大学院博士課程修了
2002 年	慶應義塾大学眼科助手
2005 年	伊藤医院眼科副院長
2007 年	東京大学眼科臨床研究員
2011 年	慶應義塾大学眼科講師 (非常勤)
	現在に至る

■[特別講演②] 15:00～16:00

「角膜疾患の診かたと新しい手術治療」

演者 国立長寿医療研究センター 眼科部長 稲富 勉 先生

前眼部疾患はバラエティーに富むが、診療においてはまず正確に診断することが重要である。近年は羊膜移植や角膜内皮移植、さらには再生医療を応用した培養上皮移植や培養角膜内皮細胞注入療法が現実となり、角結膜疾患にたいする外科的治療の考え方や治療選択はめざましく変化している。新しい手術の登場により難治性角結膜疾患や角膜内皮疾患への治療計画や手術適応も変わってきた。本講演では一般的な角結膜疾患で注意したい点や難治性疾患のアップデートな内容について疾患の診かたや治療選択など診療に役立つ情報をお話ししたい。また手術治療に関してはコンベンショナルな考え方に加え、新しい羊膜移植やデスメ膜移植の利点や適応についてお話しし、今後期待される再生医療についても言及したい。

ご略歴

1990 年	京都府立医科大学卒業
1993 年	ハーバード大学眼科研究員
1997 年	京都府立医科大学眼科助手
2000 年	藤枝市立総合病院眼科部長
2002 年	京都府立医科大学眼科学教室学内講師
2015 年	京都府立医科大学眼科学教室講師
2019 年	国立長寿医療研究センター 眼科部長 感覚器センター長 京都府立医科大学眼科学教室 客員講師